

インターネット公開許諾のない文章には墨消し処理を施しています。

F劇団のこと

加藤 芳慶

面倒な議論はぬきにして、現代演劇の動向についての率直な感想を言わしてもらおうなら、五百名をこえる多数の観客を相手にする劇は、今後ますますはやらなくなるだろうという気がする。ここ十年余りの間、京阪神地区で、私自身の観た百をこえる劇のうち、心に残る芝居を振り返ってみると、それらの多くは、収容数が二百名をこえることのない小劇場か仮設の芝居小屋といった所で演ぜられたものである。二十年程前、ジョージ・スタイナーは、『悲劇の死』の中で、「十九世紀後半および二十世紀前半は、特定の劇場で特定の観客を相手にして演ぜられる同志的演劇の時代」と言ったが、現代演劇は、この時代の延長線上にあって、同志的演劇の傾向を一層強めていると言えそうだ。

前口上が長くなっただが、以上の傾向を、劇団経営の側から言えば、演劇は金銭的にはま

すまず割に合わない仕事になっていくということになる。観客数は限られ、だからといって入場料には自ずと限度があるからである。

私がここ数年、公演のある度ごとに、比較的良好に観に行くものに、神戸を本拠地にして活動をつづけているF劇団がある。彼らの芝居は決してうまいとは言えない。俳優が台詞をとちったりする時、大抵はなんとかごまかして先に進むものだが、この劇団の俳優は、ごていねいにもう一度言いなおしたりする。

この生真面目すぎる素人くささが、この劇団の魅力の一部でもあると言ったら、ひいきの引き倒しになるだろうか。とにかく、劇団員は皆若い。そのなかには、意欲もあり才能もあり、このまま育ってほしいと思った人が何人かいた。が二、三年経って、この劇団の公演パンフの俳優欄にふと目をやり、かつての（と言っても二、三年前にすぎないが）俳優の多くの名前がそこになく、すっかり入れ替わっているのを知って愕然とする時がある。こうした場合、他の劇団に移って活動をつづけている人はきわめて少数で、多くは演劇を断念したとみるのが普通である。断念した理由の多くは、結局のところ、経済的な問題である。演出のK君は、なかなかの偉丈夫だが、

数年前、過労が重なり肝臓を悪くして入院生活を送った。私がそれを知ったのは大分後のことだが。

経済的には報いられることのはなはだ少ない彼らだが、生活の苦しさを彼らの口から聞いたことは一度もない。演劇にたずさわっている者なら、そんなことは言わなくとも百も承知だということもあるが、生活の苦しさが演劇の貧しさの口実になってはならないからである。ただ一度だけ、公演パンフの片隅につきのようなことが載っていたのをおぼえている――公演会場は、夜のこととて、時間の制限があり、終演後はメークアップをおとす暇もなく後片付けに追われる時がある。そんな時は、取るものも取り敢えず会場の外に出、道端で月の明りを頼りにメークアップをおとすのだ、と。

(かとう よしのり 文学部助教)

飢餓醗酵

佐藤 心 岳

現在の日本人は、諸外国の人びとの生活に比べると、総体的にいって、かなり贅沢な生活をしているように思われる。このように物質的に豊かな生活ができるということは、ひじょうに結構なことであるが、しかし、われわれは、物質的にあまりにも恵まれていまするために、かえって不幸であるという側面もよく認識しておかなければならない。

それでは、われわれはどのような状況のもとで生活を営むのが最も望ましいのであろうか。これを人格の形成の問題との関連において、酒をつくる場合に譬えて考えてみよう。

品質のよい酒をつくる場合には、できるだけ白くついた米がその原料として用いられるといわれている。米が白いということは、その米そのものについていえば、それだけ栄養分が少なくなったということになる。これに對して、白くつかれていない玄米は十分に栄

養分を貯えているということになる。それで、白くついた米に酵母菌を加えて酒をつくると、その米は栄養分が少ないので、酵母菌自身はそこで生活するために呑気に構えているわけにはいかなくなる。

このように、白くついた米には栄養分が少ないので、酵母菌は一種の飢餓状態に置かれることになる。したがって、酵母菌はやむをえず一生懸命にからだをうごかして働かなければならないということになる。このような酵母菌の積極的な働きが、結果として品質のよい酒をつくり出すことになる。

これに反して、白くつかれていない玄米に酵母菌を加えて酒をつくると、その玄米には栄養分がたっぷり含まれているので、酵母菌自身は、何もしなくても、その栄養分を必要なだけとれるために、なまけものになって、あまり積極的に働かなくなる。その結果としてあまり品質のよい酒ができないということになる。したがって、酵母菌を飢餓状態に置けばおくほど品質のよい酒がつくられるということになる。このようにして酒がつくられることは、とくに専門用語で「飢餓醗酵」と呼ばれている。

このような意味において、われわれが充実